

01 TSふたなり調教開始

イエロー「じゃあ、リーダーとブルー、二人のメス奴隷調教、始めるよ♡ せっかくベツドも用意してくれてるみたいだし」

ブルー「イエロー、完全に洗脳されやがって、リーダーもなんとか言ってやれよ」

イエロー「無駄口はなしたよ。最初は、ぼくのオチンポに奉仕♪ メス奴隷がご主人様に挨拶する基本だからね」

ブルー「男のチンポにキスなんかするわけ……」

イエロー「素晴らしいながら、ぼくのこれに釘付けじゃない♡ 組織が付けてくれたふたなりチンポ。それに僕もブルーも、もう女の子でメス奴隷なんだからおチンポにご奉仕ぐらいできないと、ダメだよ？」

ブルー「ば、バカなこと言うなよ……うっ、すっげえ血管もビキビキ浮きでて、凄い太さ、ごくっ……」

イエロー「いいオチンポでしょ♡ 自分のでなかったら、ぼくがご奉仕しちやいたいぐらいの、ふたなりデカチンポ♡ ほら、ブルー、命令だよ、舐めて。リーダーも、さっさとして」

ブルー「つく、なんで、俺は男なのに……か、からだが勝手にっ、ん、ちゅ……んれろ、れろろッ、んちゅッ……これくらいでッ、んふあっ♡!？」

イエロー「反抗的な目つきでおちんちんしゃぶられるのってゾクゾクきちゃう♡ ん♡ アイスキャンディーみたいに根元から先端にかけて、れろれろ舐めてね。リーダーもブルーにだけさせちゃだめだよ、あ♡ んんッ、そうだよ……ああ♡ 唾液をいっぱい舌に載せて、ああああ♡ オチンポしゃぶって♡♡」

ブルー 「んっ、はふ、うう、俺……どうしてイエローのチンポをしゃぶっちゃまってんだ……んむう♡ ちゅ、ちゅぱッ、はふ……興奮なんてして、ん♡ ないからな……洗脳で体が勝手に、んあ♡ 絶対こんなの、はあ♡ やぶってやる、ちゅぱ♡」

イエロー 「リーダーもブルーも必死に抵抗してるの正義の味方っぽくていいよ。今はそのままでもいいから、いっぱい舐めなめして、キスして。あはあ♡ 敗北ヒーローにふたなりチンポ、しゃぶられて、気持ちいい♡ んううッ♡ カウパー溢れてきちゃったあ♡」

ブルー 「んむう♡ んちゅぱ♡ ちゅっぱッ……はあ、はあっ♡……んっ♡……んちゅ、れろろ、こんなチンポなんか……ん♡ ぷあっ……♡」

イエロー 「ブルーのお口、柔らかくて、あはあ♡ 完全に女の子の口だね。あとは、俺って言葉遣い直したらもつと可愛くなるのに」

ブルー 「んふう、俺、男なのに、なんで……ちゅ、んちゅ♡……ちんぽなめるの、つく、あ、だめなのに……ふあ♡ れろ、んちゅぱッ♡」

イエロー 「あ、ごめんねえ。で、ブルーはどう？ ぼくのオチンポ啜えて、窒息しそうなままフェラするの？」

ブルー 「う、うるさひ、んちゅぱ、ちゅぱちゅぱッ、はふ♡ こんなチンポ啜えて、感じたり、気持ち良くなったりするわけなひろろお、ちゅるるっ、ちゅぱちゅぱちゅぱッ、んふう、ちゅぱちゅぱちゅぱッ、んううッ♡……はふう♡ れろろ、デカチンポ、まだおおひくなつれ、苦しいけろお、やめられないのお……♡」

イエロー 「あはあッ♡ オチンポにフェラ奉仕するときの背德的な悦び、たまらなくない？ ブルーがどんなに抵抗したって、キミの深層心理には、もうオチンポ好きなメス奴隷って書きこまれてるんだから、どうにもならないよ♡」

イエロー「リーダーも一緒だよ、男の娘なのに、元男のチンポしゃぶって、まだまだいっぱいメス堕ちの気持ちいいこと教えてあげる♡」

ブルー「うう、くそっ、なんで俺、チンポなんかしゃぶつれ、あふうう♡ んじゆるる、れろろ、れろろッ、興奮してない、俺は興奮して、はあ、はあ♡ んちゅ、ちゅば……♡」

イエロー「て、言いながら、ああああッ♡ ブルーが一番敏感な、亀さんの頭をしゃぶつれ、ああはあ——ッ♡♡♡ もっ、出るう、出しちゃうよおお、ぼくの初射精♡ 二人にプレゼントしひやううッ♡♡♡ 特にリーダーの顔にいっぱい顔射してあげる♡ んはああ——ッ♡!!」

ブルー「んむう♡ あああああ♡♡♡ これ、なんだ、すげえ、勢いで、んむうう、顔にかかって、口の中にまで、えううう、けほけほっ、んむうううう、あ、口の中にイエローの精液♡ いっぱい、これえ、イヤなのに、体熱くなつて♡ ああ♡ 何だこれ!、んくんくッ♡♡♡」

イエロー「ああ♡ いいよ、ブルーのお口にもつとだしてあげる♡ ぼくの全部飲んで♡」

ブルー「んぶっ♡ やめ、ろっ、ああ♡ 意識飛ぶッ、ん——ッ♡♡♡」

イエロー「あは、ブルー、精液飲んで女の子みたいな声だしながら、イっちゃった♡ そうそうブルーは洗脳でオチンポはもちろん、精液にも発情してイっちゃうようにプログラムされてるんだよ♡」

ブルー「ううう……くそ……こんなあ、お、俺は男なのに……」

イエロー「違うよ。ブルーはもうオチンポのない完全メスボディだよ♡ だから今のはメスとしての初イキ♡ これからは女の子の気持ちいいところ身体におぼえさせていこうね♡」

イエロー「リーダーの顔もぼくのぷりっぷりのふたなりせーしでいっぱいだけど、どう？  
リーダーにも精液で感じるプログラムされてるから、すごく感じてきたんじゃない？」

イエロー「それ それじゃあー、次は……、あ、リーダーのおちんちんもすっかり勃起しちゃてるね♡ おかえしにー、ブルーと一緒に手コキでにぎにぎし、しこしこ♡ してあげるね♡」

ブルー「ふあ、つく、また体が勝手に……あ、リーダーの……だめ、リーダーも洗脳なんかには負けちゃダメだ……くう、熱い、あ♡……」

イエロー「リーダーのオチンポ、ちつさくで可愛い♡ でも、手でにぎにぎして、優しくしこしこ♡ んふッ、小さいのにおつきくなってきたね。ふふふ♡」

ブルー「つく、すまないリーダー。体が操られて手が……ん♡ リーダーのチンポ、うう、俺は何考えて……俺も頑張るからリーダーも洗脳なんかには負けないで耐えてくれっ……」

イエロー「ブルーの手の動きいやすい。んふ、オチンポにも抵抗なくなってきたね、ばくも負けないぞ、リーダーのオチンポをしこしこ♡」

ブルー「それは、おまえが洗脳で……はあ、はあ、リーダーも耐えてるんだ、俺だって……ん♡ こんなあ……♡」

イエロー「もう射精しそう♡ さっきのぼくみたいにびゅっビューって気持ちよくいっぱい臭い白いの出しちゃいたい？」

ブルー「ふあっ♡!? リーダーも出すのか!? イエローが出したみたいにせーし……ん♡ つく、こんな洗脳……」

イエロー「ブルーってば言葉と表情があってないよ。そんなもの欲しそうにしこしこされたらリーダーもすぐに爆発しちゃうじゃない♡ いったんストップ」

イエロー「ん？ リーダーの表情は何かなー、女の子に改造されちゃったばく達のお手々で最後までして欲しかった？ それとも、出すときは女の子のここにぶちまけたかったかなー？」

イエロー「それはダメなんだよね、僕とブルーの初めてはご主人様のものだからね♡」

ブルー「イエロー何を言ってる、俺はおと……」

イエロー「だから。お尻のほっで出させてあげる♡」

ブルー「な、おし、り!? え……」

イエロー「そ、お尻♡ 洗脳で書き込んでもらってるからわかるよね。前はとっておかないといけないから後ろ、アナルでヌキヌキしちゃおうね♡ 大丈夫、僕らの体はおちんちんならどこでも気持ちよくなれるように作られてるから。それじゃあ、ブルー初めては譲ってあげる♡」

ブルー「お、おい待て……」

イエロー「ブルーはベッドに四つん這いになって、お尻をこっちに向けて♡ リーダーはブルーの腰に手を添えて、お尻の穴にオチンポを押しつけて♡ そのままアナル処女を奪ってあげて。命令だよ♡」

ブルー「うう、身体が勝手に……リーダー……やめて……くれ……」

イエロー「かわいい犬耳もつけられて、メス奴隷になっっちゃってるから動物みたいにセックスしたらとっても気持ちいいよ？」

ブルー「つくう、いや、だ。んひい、こんな、耐えないと……俺達は正義の……」

イエロー「もー、元正義の味方だったからって洗脳に抵抗してもムダだって。まあ、そんな無様な抵抗もご主人様が見て楽しむために残したもののなんだけどね」

イエロー「ただ、ぼくも早く楽しみたいから……ぼくがリーダーのアナル処女を、ごくつ、貰っちゃうから、そのままリーダーもブルーのアナル処女を奪って、みんなで一緒に楽しもうよ♡」

ブルー「ば、バカッ、何言ってるんだよ、俺のアナル処女、つく、チンポのさつきぽが当たるだけで!？」

イエロー「今更、メス声出して懇願しても遅いって、ブルーちゃん。リーダーのオチンポ入れてもらえるの、本当はうれしいんでしょ♡」

ブルー「うるさい、うるさい、うるさいッ、うううバカなこと言うなよ……俺は男で、ああああ、尻なんかで気持ちよく……あんツ……♡」

イエロー「リーダーにアナル処女もらってほしいって、ブルー言ってるよ。じゃあ、リーダーのお尻のあなに、ぼくのデカチンポを……あふうう♡押し当てて♡むりむりって入ってるのわかるでしょ？ほらあ、中に入っていて♡ああ、すごいリーダーのちっちゃいからでぎっちぎちに締めつけ♡……リーダーも腰をもっと前に出さないと、どんどんお尻にぼくのオチンポが入って苦しくなっちゃうよ♡ほら、仕方ないんだよ、リーダーの腰を前に出して、んううッ、ブルーのアナル奪っちゃえ♡」

ブルー「ああ……ああおお、なにこれなにこれ!、ああああ♡お尻にリーダーのチンポ入ってきて、あん♡あん♡♡♡あああッ♡♡♡こんなの気持ち、いい、わけえ、奥まで、あああッ、リーダーだめえ♡!？」

イエロー「あはっ♡リーダー、ブルーのアナル最後まで奪っちゃったね、腰をブルーのぷりぷりのお尻に押しつけちゃって♡んふふ、どう、ブルーの中は。すんなり入った割にすごい締めつけだよね♡だって、お尻でチンポを喜ばせるように、ぼくらは作りかえられちゃったんだよ……それはリーダーのお尻の穴も

同じ♡ ぼくみたいなデカチンポをちっさいお尻でぐいぐい飲みこんじゃって、ほら、まだ奥に入るよッ♡」

ブルー  
「リーダー、大丈夫か。こんな、つくあ、の、今までのピンチにくら、べたらあっ！ ぜんぜん、平気だからさ。耐えて、イエローの目を覚まさ、んん♡!?」

イエロー  
「あ、言い忘れてたけど二人ともイけばいくだけ洗脳の度合いがすすんでメス奴隷化しちゃうから、ぼくも頑張っていっぱいイせてあげるね♡」

ブルー  
「ふうー、ふう……つく、それでも、んん、ひうつ♡……俺たちは負け、ない」  
イエロー  
「そんなこと言っつて、もうちよつとで、リーダーの直腸奥まで、完全支配しちゃうよ、んうつうつッ、それえッ♡!! お尻の奥、思い切り圧迫しちゃう、ほら、リーダー感じるでしょ？ 感じるよね？ お尻のあなでメスの悦びに負けちゃえ♡♡♡!」

ブルー  
「リーダー、頑張れえ!? あ、うそ、チンポ震えて、あ……ああ♡ あ——ッ♡ リーダーのがいっぱい♡ あおお——ッ♡♡♡ 俺の中にどぴゅどぴゅどぴゅるるるって、入ってきて、中が熱くて♡……ああ、負けちゃダメなのに、あへええッ……♡」

イエロー  
「あはッ♡ 出てる、出てる♪ ひと突きでリーダー射精しちゃうてる♡ んふふ、すごい、ところてん射精ってホントにあるんだー♡ あ、でもブルーのお尻の穴が気持ちよかったから出しちゃったのかな？ まあ、ローション代わりに良いからそのまま続けちゃおうね♡」

ブルー  
「あちゅい♡!? 出てる、出てるのに!? つく、いや、気持ちよくなんてえ!? ひう、つくあ、あ♡ ああっ♡♡」

イエロー「ほら、ブルーもされたがつてるよ、そのままオチンポでブルーをメス鳴きさせながら、ぼくのデカチンポで、気持ち良くなる、快楽を感じるほど二人の洗脳も進んじやうからね。ああ♡ リーダーのお尻、好き、最高♡」

ブルー「ああおお、あーッ、リーダー、ああああ♡ リーダー耐えないとお♡ あはああ♡ んんっ♡ んひい♡♡♡!」

イエロー「リーダーも感じて、声出していんだよ♡ ぼくがデカチンポを押しこむと♡♡ お腹の奥まで圧迫されるの、引き抜くと♡♡ 排泄にも似たいけない感覚が、下腹部から溢れちゃうでしょ♡ いいんだよ、素直に感じて、よがってよ♡ ぼく、リーダーみたいな可愛い男の娘の喘ぎ声を聞いて、快感に蕩けきった幼い顔を見てたいんだ。ああ♡ そうだよ、もっという声で鳴いて♡♪」

ブルー「だめ、ああ♡ イク、このまま尻でイっちゃまう♡♡ イっちゃったら女の子になるのにいつ、ああ♡♡♡♡!」

イエロー「ブルーもそろそろみたいだし、リーダーもイケちゃうよね、これで最後の仕上げだよ♡」

イエロー「デカチンポを奥まで突き入れられて、気持ち良くなってイっちゃって洗脳されよう♪ ぼくも、もう、もうッ、精液♡ あはああ♡♡ 出しちゃう♡♡ ブルーも、リーダーもほらほらああ♡♡ イっちゃええ♡♡!! ああああ、あ——ッ♡♡♡♡ ふくうっ——ッ♡♡♡♡!!」

ブルー「耐え、あ、ごめんリーダー、俺、俺、イッちゃ、イクううう——ッ♡♡♡♡!!」

イエロー「ああ♡……ああああ♡……リーダーの中に精液、いっぱい精液♡ どびゆらせ



ひやったあ……ブルーもリーダーもイッてたの肌で感じて楽しかったよ♡」

